

認知症があっても地域で

安心して暮らせる

ために私たちができること！

令和5年12月7日 中央公民館にて、地域のボランティア（認知症支援リーダー、介護予防見守りボランティア、カフェボランティア）、民生委員児童委員、ケアマネジャー、ヘルパー、デイサービス、警察、行政、社協(CSW)合わせて26名が集まり、認知症の方が住みやすい地域に向けて話し合いました。



会議の内容について

認知症の方が暮らしやすい地域に向けての

実践報告

昨年度の地域ケア推進会議にて話し合った、「認知症の方が暮らしていくためにあったらいいな」を、実践されている2名の認知症カフェ運営ボランティアである、地域住民の方に発表をしていただきました。



「歩いて行けるところに居場所がほしい」との声を受けて、小川東町で認知症カフェ「小鳥ひろば～ぴーちくパーチク～」を立ち上げた、山本さん

小鳥ひろばの様子



〈発表内容〉地域住民向けに認知症サポーター養成講座を開催したところ、住民の一人から、自身が認知症になった時気づいてくれる人が欲しいという声から、近隣に居場所のない小川東町で認知症カフェを立ち上げることにした。



「本人にもっと積極的に関わる勇気が必要」「居場所に誘ってくれる人がいると良い」との声を受け、学園東町で実践されている、認知症カフェ「オレンジカフェ中央」運営ボランティア 加瀬さん

オレンジカフェの様子



〈発表内容〉学園東町1丁目で繋がりのある方・最近様子が気になる方に、カフェへのお誘いを続けている。オレンジカフェに偏ったイメージをお持ちの方に対しては、内容を丁寧に説明することで、参加に繋げている。

認知症の方が暮らしやすい地域に向けて、私たちができること

意見交換

4つのグループに分かれ、取組報告や連携して取り組めることはないかを意見交換しました。

私たちが日々取り組んでいること（意見が多い順）

- 1 本人が安心できるように対応を工夫 例…傾聴する、自尊心を傷つけない
- 2 見守り 例…挨拶・声かけ
- 3 情報提供 例…オレンジカフェの案内
- 4 傾聴 例…昔話や世間話を聞く
- 5 関係機関に繋ぐ 例…包括に同行する
その他…介護者への支援、認知症に関する知識の啓発 など

私たちが今後できそうなこと（意見が多い順）

1 居場所での取組

- ◎ 居場所への声かけ、一緒に行き帰り
- ◎ 居場所を作る
- ◎ 認知症でも参加できることを増やす
- ◎ 本人が通い続けられるように工夫する

2 近所での取組

- ◎ 困りごとに対して一緒に考える
- ◎ 閉じこもりにならないよう訪問、話を聞く
- ◎ 介護者のサポートをする

3 地域に向けての取組

- ◎ 認知症への否定的なイメージを変えるため、私たちが認知症に対して正しい知識を身につける
- ◎ 小学生や若い世代に向けて、認知症サポーター養成講座を開催する

その他、ネットワークをさらに大きくする など

～ まとめ～

この度は沢山のご意見をいただきありがとうございました。

今回取り組めることとして、①居場所を中心とした支援、②近所での支援、③地域に向けた支援に分けることができました。これらの課題一つ一つを皆様と話し合うことで、認知症の方とその家族がより暮らしやすい地域を実現すべく、引き続き取り組んでいけたらと思います。